

# 中国経済の現状と展望

現代中国研究家  
津上俊哉

- \* 習近平政権の内実は救国連立政権
- \* 投資バブル後遺症の実態
- \* これから長いトンネルに入る中国経済
- \* 上海株乱高下の裏事情
- \* 元の下支えで米国債売却も
- \* 迫られる経済成長と利権の二者択一
- \* 長期では少子高齢化が足かせに
- \* 対日政策も変化
- \* A I Bより手強いシルクロード基金
- \* あと10年は続く東アジアの不安定期



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）  
今日は皆さんたいへんご興味がおありだと思  
いますので、中国経済についてお話をいただき  
ます。

津上さんは経済産業省を経て、最後は北京大  
使館に駐在しておられて、中国が非常に面白い  
というだけで独立をされたということござい  
ます。ここでも中国問題について専門家の方  
にお話をいただいておりますが、経済、産業  
の面できちっと押さえることは、特に政治の問  
題を中心に行っている方には少し方向が違うとい  
うようなこともございますので、今日はその  
ところをじっくりお話しただけだと思います。  
去年2月に文春新書、それから今年は『巨龍の  
苦闘』という角川新書の本をお出しになってお

られまして、いま次のテーマを探しておられる  
ということだと思えます。最新の中国の経済を  
どういうふうに見たいのか。ちまたは中国  
崩壊論からいろいろありますが、実態がどうな  
のかということをもう少し冷静に見なければい  
けないということで、今日はそういう示唆を与  
えていただけたらと思います。  
それでは津上さん、よろしくお願いいたしま  
す。（拍手）

## 習近平政権の内実は救国連立政権

津上 皆様こんにちは。ただいまご紹介にあ  
ずかりました津上でございます。ご紹介のお  
り経済屋でございますので、私の思う中国経済  
の今の状況を中心にお話をしたいと思います、